くろだいや新聞

一万三千二百五十六トン

出た！日産最高記録

負傷も ゼロ　意欲のヒット放つ

好調の三川鉱

方別最高川炭記録も

2000日無災害で表彰

金員一致の努力で

古城・末吉・坂本三氏が所長表彰

改善提案の努力みのる

満勤ご苦労さま

80人が夫婦で旅行に

古ホースを利用

簡易散水器を考案

問題の社内報〝くろだいや新聞〟。「出た／日産最高記録」。何という厚かましさだろうか。

「石炭日産最高記録」というが——

果たして坑底の実態は？

疲労した体にムチ

休憩所なんか要らん、と職制

消されてしまう公傷

めちゃくちゃな開削坑道

一月二十五日発行の三井三池鉱業所の社内報〝くろだいや新聞〟は、「一万三千二百五十六トン。出た！日産最高記録。負傷もゼロ。意欲のヒット。好調の三川鉱」の見出しで、三川鉱の出炭ぶりを報じた。

見出しは出炭上の新記録ばかりでなく、とくに「負傷ゼロ」と、坑内保安も最高といわんばかりの口ぶり。だが——、その坑底の実態は果たしてどうか。

三川鉱の坑底の今の実態は、会社側の余りな出炭強行策のために荒れに荒れている。

そこに、おどろいたことが起きた。二月八～九日の出来ごと。

九日、通産省の公害局から派遣されてきた係員の坑内巡視があった。たしか石炭経営者協議会（会長は有吉新吾三井石炭社長）からも係の者がつきそったともいわれるが、一行を迎えるというので同鉱の坑内は前日から大変な騒ぎとなった。荒れに荒れている坑内の清掃整頓。そのためあきれたことには、同鉱上層六十払の採炭工まで十八人も、日役に狩り出してのにわか清掃。

他はおして知るべきで、ある者は、坑底一面に散らばっている機械や材料の取りかたずけ。ある者は、全身真っ白になっての岩粉ぶり。

それでも坑内に広がる不安

いつものことながら、巡視の一行が通るコースと時間は、前もって会社と当局との間にぴしゃりと相談ずみ。その時刻、お通りになるコースだけ整理すればよいのだから、ことは簡単なはずだが、かねてがかねてだから、それでも作業は決して楽ではなく、仕繰工の一人は語った。

「たのむけん、あそこばちょっと掃除してくれんな、と係員がいうもんだからそこにいって見るとどんぴしゃり。それで『掃除はしてあるじゃんな』というと、『それをもういっぺんはいとってくれ』、とこれですよ。あきれてものもいえんかったですばい」

その係員は、「もう昨日から二十四時間、俺はあがっとらんとばん。係長から『あがんな』といわれとる。つらかばん」、とこぼしていたという。

おかげで、「その日、巡視の一行の通らず坑道だけは、それこそアスファルト道路ンごつきれいに磨きあげられて、あれならだれでも目をつぶってでも歩かれたですよ」と、同仕繰工は笑ったが…。

さて、巡視が終ったその後は？

たち向かう炭層は、右左の幅百五十メートル。その高さ二メートル。それに奥ゆき約六十センチ。それだけの石炭を、ドラムカッター（石炭を削り取る機械）の頑丈な歯がうなりをあげて削り取る。それが一カット分。

それを、一方で六カットもやる。前進速度は、まさに一方で三メートル以上。それで、所要作業員はといえば、わずか二十人前後。これが三川鉱のシールド自走枠払採炭場の今日の実態だ。

数年前までと比べて見るがよい。所要作業員が約四十五人ほどもかかりながら、作業量といえば一方で二カット。つまり一方で一メートルちょっとだけ掘り進んでいたものである。それが今は…。わが国の石炭政策を大黒柱としてささえる、石炭産業独占体の三井石炭が、大もうけにほくそ笑みながら設定した出炭目標を、しゃにむに完遂しようとする姿勢が生み出した、気違い採炭。

それでいて採炭場には、休憩所もない。休憩所くらいは…と準備している作業者に向かって、職制はいったという——「そんなもんは要らん、要らん。よそのヤマでは、交代しながらめしをかきこんでいる」。

新労組員が嘆いた——「もう疲労困ぱい。その体をムチでたたかれるようなもんばん」。

採炭ばかりが

採炭速度に追っつかず、掘進や仕繰の仕事はついていけず音をあげている。このことは、坑外の仕事にも影響を広げる結果となっている。坑外の作業員は語る。

「以前は、坑内から修理のためにあげられてくるカッターなど、完全に整備をすましてからおろすのが常のことじゃったですが、今は『これは何日まで仕上げてくれんな』、とこれですよ。これじゃあ、よか整備のできるはずがなかでしょう。

こういうことですから、坑内のすさまじさが思われます」

まさにこうして、三川鉱の坑内は日ましに不安に包まれてゆく。

四山鉱では、今も坑内の余りな高温のなかでの作業強行のため、熱中症患者が後をたたず問題になっている。

かつぎあげられたそれらの患者のなかには、入院を余儀なくされた人もいるというのに、すべて私傷病取り扱いで処理され、公傷ゼロの統計が出る。

つい先頃までは、公傷患者といえば例の保安部預りという処置で消されるのを常としたが、今は保安部を通り越えて、人事部預りという処理手段さえ生み出されてきたという。

それどころか作業中ケガをすれば、職制の手でたちどころに金にならぬ作業につけられ、まるで見せしめにでもするような仕打ちさえとってくる。「一カ月を、ケガをした反省の期間とする」ということらしく、そのため今では、働く者が、ケガをした事実をかくしながら働かなければならぬ実態さえ見られる、という。

宮浦鉱の坑底の実態もひどく、現在開削中の有明炭鉱の坑底につながる坑道など、「もうガスは多く、足場は悪く、土台めちゃくちゃで、二度といきたくない」と、恐ろしさを語る人さえいる。

この話、ホント？

▼…これはロッキード疑獄を裁く東京地裁での話。新聞〝社会新報〟が伝えた、全司法労組東京地裁支部刑事部機関紙の記事——

「公判の日は課長以下係員まで動員され整備に当たらされ、エレベーターも田中角栄のため一般職員は使用が禁止される。それどころか、来庁尋問室の模様替えや、札の新調など……」

いかがですか。

がんばる掲示板

三川指導部、闘いに鋭敏

三川指導部の掲示板

▼…写真は、三川指導部の掲示板。玄関脇に立っている。

この掲示板、場所の関係からでもあろうか、たたかいへの反応は実に鋭敏。労協・福祉闘争が近づくと、いつの間にかすばやくかきかえられて、道ゆく人びとに要求実現をめざすアピール。

マンガもうまい。がんばろう。

雪のなかで闘っています

石川　吉田　享司

三池炭鉱労組に結集する仲間の皆さん

昨年は三池オルグご苦労様でした。新しい年も皆様と共に、労働者の前進のために、北陸の片田舎の職場、地域で先頭に立って闘っています。勝利の日まで、日本各地を元気でオルグしてください。

本年は加賀地区労で、ご協力致します。

北陸は雪です。加賀市では屋根の雪おろしに多忙です。

暖い南国がうらやましいです。

昨年はおかげ様で、島崎ゆずる衆議院議員も二度目の闘いに勝ちました。次は、参議院議員選挙の闘いの勝利に向けて頑張ります。

共に頑張りましょう。仲間の皆々様によろしくお伝えください。

御礼

×

右のお手紙は、三川指導部の宮原正満さんあてに寄せられたものです。吉田さんは石川県加賀市大聖寺福田町の加賀地区労の事務局長として、日夜活動されています。どうかよろしくお願いします。共にがんばりましょう。

大阪市西区九条二丁目一四番四号にお住まいの、土路生（ところぶ）幹夫さんと幸子さんご夫妻から、多額のカンパをいただいております。昨年の暮れのことでしたが、これまでもたびたびいただいております。心からお礼申し上げご期待にそうようたたかうことをお誓いいたします。

三池炭鉱労働組合